

論考 ベンチャービジネス論

COLUMN
県内
大学発
経世済民

(649)

昨年の晩秋、勤務する短大から専門科目「ベンチャービジネス論」の担当を打診された。すくなくの上がりではなく、自ら得た代表取締役としての会社経営や、マーケティングリサーチの

アナログノウハウをデジタルテクノロジーに融合する事業を推進し、ITベンチャー企業を東証マザーズに上場した筆者の経験を生かせるかと考え快諾するにとにした。

時を同じくして、NHK総合で放映された「映像の世紀」が、フライングエクト、世界を変えた「愚か者」フラーとジョブズ」を見る機会を得た。涙があ

ふれるくらい、忘れかけていた情熱を思い起こさせるには十分な内容であり、ベンチャービジネス論の講義の根底を成す考え方の枠組みがおのずと決まった。

番組の冒頭に、2005年のスタンフォード大学卒業式で行われたスティーブ・ジョブズ伝説のスピーチ「Stay hungry, Stay foolish」(ハングリーであれ、愚か者であれ)の一説が流れた。あまりにも有名なこの言葉は、若かりし頃のジョブズも愛読し、1960年代から70年代にかけて、とがった若者たちの

川口短大 織戸 恒男 ビジネス実務学科 准教授



聖書となった「ホールアースカタログ(Whole Earth Catalog: 地球力カタログ)」の最終版の背表紙に書かれていたフレーズである。「Stay hungry, Stay foolish」決して常識にとらわれるな」がベンチャービジネス論の根底にある。

一方、バックミンスター・フラーは「ダイマクシオンカー」や「ダイマクシオンハウスの失敗、「ジオデシックドーム」の成功で有名な発明家であり、「宇宙船地球号」を提唱した思想家でもある。ホールアースカタログは「最小のもので最大をなす」というフラーの思想から生まれ、ジョブズは当時の紙でできた「グーグル」と表現し回想している。なお、フラーのジオデシックドームは、過酷な天候にも耐え得るその設計と構造から、日本では64年に富士山レーダーのドーム骨格に採用された(現在は富士山レーダーがム館に移設)。

米・アップル社の創設者であるジョブズにも多大な影響を与え、当時のヒッピー文化のよどころとなったフラーの常識の捉え方を、筆者はこの番組を見て久しぶりに思い返したのだ。「私は古い世代に身につけられた若者の精神などまったく当てに

おりとつねお 上智大学文学部卒。外資系広告会社マーケティング・ワールドグループ勤務を経て、マーケティング関連企業の役員を歴任。2014年にGMOリサーチ株式会社を東証マザーズに上場。2021年4月から現職。専門はマーケティング分野。情報経営イノベーション専門職大学超客員教授(現任)。

ならないと考えている。私が考えた方が真実で、社会が信じてと言ったことの方が真実じゃなかったことが何度も何度もあったんだ(日本語訳は番組内の字幕の通り)」というフラーのメッセージは、ベンチャービジネス論を担当する教員として、心の底から身につまされる思いになる。

人生は正解、不正解の答え合わせができない。自分に何が必要で何が有益なのか、考え決めて実行するのは若者自身であるが、大人は利害関係という自身の立場で若者に常識と意見を押しつける。

担当するベンチャービジネス論の履修生が「起業家の精神と行動能力を学び、将来のビジネスにおいて自ら考え主体となつて働くことの意味と大切さ」を学ぶことができたのか。講義回数も残りわずか、この原稿が掲載される頃には答えが出ている。